

令和2年度

大阪地区

参加無料

定員220名

申込先着順

# 橋梁技術発表会 及び 講演会

新型コロナウイルスの感染拡大により中止となる可能性があります。

コロナ対策を考慮  
定員変更の可能性有

13:00~13:10 開会の辞 【未定】

## 第1部(技術発表)

13:10~13:50 架設小委員会

1. 東西水路横断橋(仮称)  
多軸台車と台船を使用した大ブロック一括架設  
～ 架設重量7000tを超える大型地組ブロックの  
ロールオンと台船架設について ～

休憩

14:00~14:40 床版小委員会

2. 疲労に強い鋼床版と取替え鋼床版  
～ 近年の橋建協の取り組み ～

14:40~15:20 海外事業委員会

3. カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事  
工事報告  
～ バングラデシュ初となる大規模鋼橋架設工事 ～

休憩

## 第2部(特別講演)

15:35~16:35

限界状態設計法に向けた鋼桁構造の一例と  
大学での学び

立命館大学理工学部 環境都市工学科  
教授 野阪 克義

16:35~16:40 閉会の辞 橋梁技術発表会  
実行委員会  
委員長 上原 正

## 開催会場

東京地区 : 10月02日(金)  
 大阪地区 : 10月07日(水)  
 東北地区 : 10月16日(金)  
 北海道地区 : 10月23日(金)  
 九州地区 : 11月06日(金)  
 中部地区 : 11月13日(金)  
 (6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

日時 令和2年10月7日(水)

13:00~16:40

会場 大阪府立男女共同参画・青少年センター  
(愛称:ドーンセンター)7Fホール  
大阪市中央区大手前1-3-49

申し込み Webサイト <http://www.jasbc.or.jp/>  
受付は令和2年8月26日~9月23日

※申し込みは、Webサイトからのみです。

継続教育 CPDS認定予定

資料配布

論文及びPPTのpdfは事前にWebサイトに掲載致  
しますので、必要に応じ出力し持参願います。

発表概要

### 【東西水路横断橋(仮称)

#### 多軸台車と台船を使用した大ブロック一括架設

本橋の架設地点である東西水路は東京2020オリンピック・パラ  
リンピック競技大会での使用が計画されています。この幅約200m  
の水路に支間長約250mの鋼単純ニールセンローゼ橋を大ブロッ  
ク一括架設しました。

大ブロックは架設地点隣のヤードで地組し、架設作業は多軸台車  
を用いたヤード移動、台船へのロールオン、水路内移動、台船バラ  
スト調整と潮位を利用した架設作業、架設後の降下作業までを約1  
週間かけ実施しました。

本発表では大ブロック一括架設の移動から降下まで一連の作業に  
ついて報告します。

### 【疲労に強い鋼床版と取替え鋼床版】

鋼床版は、軽量であり架設期間を短縮できることから、都市内高  
速道路や長大橋に採用されてきました。しかし、大型車交通量の多  
い路線の鋼床版から疲労損傷が発見され、疲労対策が必要になって  
きています。鋼床版の疲労損傷は、1990年代中頃より報告が増加  
していますが、疲労設計が行われていない橋梁での報告が多く、疲  
労耐久性向上の余地があると考えられています。本発表では、近年  
の橋建協の取り組みとして、官学と協力して行っている高耐久化へ  
の取り組みを紹介しします。

また、近年実施例が増えている既設RC床版の更新工事にも鋼床  
版が使用される例があります。本発表では、取替え鋼床版のニース  
と利点を整理し、調査した取替え鋼床版の事例紹介をすると共に、  
いくつかの諸元を系統的にまとめ、設計・施工上の特徴や留意点に  
ついて報告します。

### 【カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事 工事報告】

本橋が架設される首都ダッカと第2の都市チッタゴンとの間はバ  
ングラデシュのGDPの5割を占める重要な経済回廊です。近年の  
交通量増加により当路線の各地で慢性的に交通渋滞が多発してい  
たことを背景に、2008年から当局は同路線を2車線/4車線から6  
車線/8車線にとする拡幅工事を進めており、3橋の建設工事はその  
一環となりました。

3橋は細幅箱桁を主桁とした合成床版を有する連続桁です。全橋  
送出し工法が採用されており、3橋の内最大橋長となるグムティ第  
2橋では、橋長1410m全量を両岸から送出す大規模な送出し架設  
を実施しました。

本発表では、バングラデシュ初となる大規模鋼橋架設工事から  
得られた技術的知見や直面した課題について発表し、同国での鋼橋  
架設工事に活かされる事を目的とします。

主催:



社団法人 日本橋梁建設協会  
Japan Bridge Association Inc.

<http://www.jasbc.or.jp/>